

行政事業レビュー「秋の年次公開検証(秋のレビュー)」の 指摘への対応状況

A改訂 平成 28 年 6 月 13 日

NC 平成 28 年 2 月 26 日

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
有人宇宙技術部門

1. 「秋の年次公開検証(秋のレビュー) 取りまとめ」における国際宇宙ステーション関連の記述

(内閣官房行政改革推進本部事務局 平成 27 年 秋の年次公開検証(秋のレビュー) 特設ページ より ISS 部分を抜粋。下線と番号は JAXA にて付与)

科学技術ビッグプロジェクト(Ⅱ)

国際宇宙ステーション(ISS)開発に関する予算

取りまとめ

- 国際宇宙ステーション(ISS)については、我が国の科学技術政策の中での宇宙政策の位置づけ、更にその中でのISSの位置づけを明確に提示した上で、将来的な利益の回収が期待される投資の側面と、夢や希望、さらには外交・安全保障などの公共財的な側面があることを踏まえつつ、国益への貢献、実際の成果とコスト、将来ビジョンや今後の課題を含め厳格な評価を行い、それを前提に、国費投入額の適正性について国民への説明責任を果たすべきである。また、事業をより効果的・効率的に進めるようマネジメント体制を確立し、改善していくべきである。
- 「きぼう」を利用した研究については、現状を見ると、⁽¹⁾一部評価結果は公表されているが、その内容は評価というよりも研究結果の広報となっている。⁽²⁾ 今後は投入予算に見合った科学的成果があったか、「きぼう」で行う必然性があったかについて専門家による厳格な審査を行い、⁽³⁾ その内容・プロセス・評価結果を透明化し広く国民に公表すべきである。また、⁽⁴⁾ 研究課題の選定に当たっても、同様の視点からより透明なプロセスを通じて厳格に審査すべきである。
- 「きぼう」を利用した研究の目標※については、単なる論文数でなく、⁽⁵⁾ 論文の被引用数、高被引用論文数などの、研究の質を表す指標とすべきである。
- 「きぼう」への民間研究委託(有償利用)についても、価格設定などを見直した上で促進すること等により、民間資金の一層の活用を図るべきである。

※JAXA 注 : 指摘対象箇所は以下。

平成 27 年度行政事業レビューシート(文部科学省作成)
宇宙ステーション開発(抜粋)

成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度
							- 年度
	平成32年度まで、日本実験棟「きぼう」で実施された研究の成果を活用した論文の件数について、直近過去5年分の平均を毎年上回ること	日本実験棟「きぼう」で実施された研究の成果を活用した査読付論文数	成果実績 査読付論文数(件)	142	147	146	
			目標値 査読付論文数(件)	83	102	120	133
			達成度	9%	171%	144%	122%

「きぼう」利用に対する指摘の対応については、委員会での議論を踏まえ、文部科学省と調整。

以上